

私の自分史

(2020-2-17)

木下 俊延 (Toshinobu Kinoshita) Google 検索の結果

木下延俊 (のぶとし) - Wikipedia 木下延俊が、検索上位にでます。

私の名前は、父親が、延俊公に、ちなんで、名付けました。

木下延俊公は、安土桃山時代から 江戸時代初期にかけての武将、大名、茶人。

豊臣秀吉の正室 (ねね) は、延俊公の叔母。

徳川期になり、九州豊後 日出 (ひじ) 藩 初代藩主。

日出藩 江戸期 最後の16代 藩主は、私の曾祖父です。

(曾祖母は、宇佐八幡 宮司の家系。)

私の家系は、木下家の分家です。

明治期になり、江戸期の諸侯は、華族に列せられましたので、木下家の本家は、終戦まで、華族。

私の人生

1939年 東京都豊島区、生まれて直ぐに、肺門リンパ腺になった。

身体が弱く、内気に、生きてきた人生のスタート。

戦時中のため、国民学校に入学した記憶なし。寺子屋の記憶が、かすかにあり。

東京大空襲(1945年3月10日)、近くの畑に、家族で身体を、突っ伏していた。

空から、B29 による華麗なる、天体ショーが繰り広げられた、記憶。

翌日、焼け出された家を後に、着のみ着のままに、東京の郊外、練馬に引っ越した。

人生の流浪の旅が、スタート。東京 →大阪 →堺 →横浜 → 逗子

ノマド、遊牧民、放浪者の人生。 逗子が、終の棲家になるのか？

記憶に残る本など

・太宰治「人間失格」(1948) 恥の多い、人生でした。

・宮沢賢治「雨にもまけず」(1931)

みんなに、でくのぼーとよばれ、そういうものにわたしはなりたい

・徳富健次郎「自然と人生」(1900) 此頃の富士の曙。

・ジャン・ジャック・ルソー「人間不平等起源論」(1755)

(結んで開いて手を打って結んで♪)作曲

革命でなく、最後は、森の中をさまよい歩く、自然人を夢見た。

・セーレン・キルケゴール「死にいたる病」(1849)とは、絶望のことである。

自分にとっての、ただ一つの、かけがえのない真実を、探した。

・ワルター・ベンヤミン「複製技術時代の芸術」(1930)

ベンヤミンのアウラとは？ 芸術 作品に宿る、美の本体。

デジタルコピーされて、アウラは、本体から抜け落ち、コピーに転移する。

・アンドレ・マルロー「人間の条件」(1933)

フランス文化相、文化財の総目録 政策。すべての文化財を、デジタル・アーカイブ。

・ヨハン・ホイジンガ「ホモ・ルーデンス」(1938) 人間とは、遊ぶ人のこと。

私の肉体

20歳 O. E. D. 重さに耐えかねて発病 ⇒ 椎間板ヘルニア (手術)

78歳 高齢化により 発症 ⇒ 脊椎管狭窄症・頸椎後彎化

(O.E.D. = オックスフォード英語大辞典 1928刊

Oxford English Dictionary. 20vols.& 3supplements)

私の思い

私は、生命体という物質のかけらとして、宇宙の片隅に、発生したごみ。

私のごみの、かけらの全てを、デジタル・アーカイブしておこう。

地球が減びた後、宇宙人が、私の、宇宙に漂うデジタルを、解読するかもしれない。

私のスケッチとは 自然の美を、ひたすら写し取りたい。作品を制作するのではない。

有名な景観とか、観光地でなく、自分の住んでいる場所の自然を。

宇宙の上から、観察します。自然には、人の生活があり、どこでも素晴らしいのです。

私にとって、逗子は、たまたま立ち寄って、住み着いた地。

穏やかで、美しい街。逗子への感謝をこめて、スケッチします。

逗子の知られた場所、スケッチ30を、選びました。

朝から、夕方まで、昼間だけの、ささやかな楽しみ。

雨天中止です。夕食に間に合うように、帰宅します。

生まれてから今まで、すべてに、生きてきた習慣です。

道具は、小さなリュックに入るだけ。小さな紙、小さなクレヨン。

車椅子で、介護されて、スケッチする将来を、夢見ている。

通りがかりの方に、話しかけられます。嬉しいひと時。

他愛のない話。時には、真剣な絵の話も。

おばさんたちと、優しい語らいが、一番に楽しい。

寄ってくる、小さな子供。スケッチのお手伝いまで。まさしく共同制作です。

遠い昔に描いたスケッチでも、その時のことを、思い描くことができます。

スケッチの素晴らしさです。

